【音楽】

～ClassPad.net の各種ふせん・授業支援機能を活用する～

楽しみながらリズム感と読譜力を育てる授業

基本的な音符の長さ、拍子、小節の概念について理解を深める。

【本授業の目的・狙い・到達目標】

教師向けの目標：基本的な音符の音価や拍子を理解させ、読譜力を養う。楽しみながらリズムに触れさせて、読譜に対する苦手意識を払拭する。

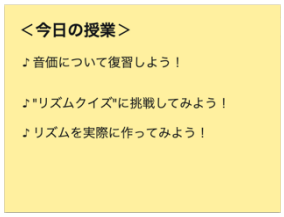
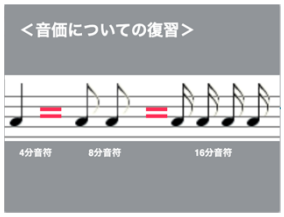
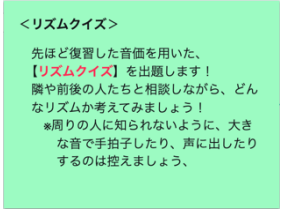
生徒向けの目標：基本的な音符の音価や拍子を理解し、自分でリズムを作れるようにする。

【ClassPad.net 活用によるメリット】

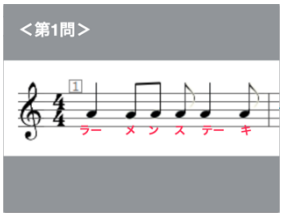
・**生徒の集中力アップ**：事前に作成しておいたテキストふせん・ファイルふせんを投影するだけで授業を進められるので、テンポよく進行でき、集中力が途切れにくくなる。

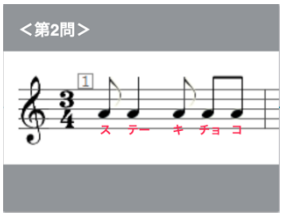
・**板書時間削減**：音価の解説やリズム課題等、事前にふせん上に作成したものを投影するだけで済むため、板書にかかる時間を節約し、授業の密度を上げられる。

・**個別最適学習の促進**：授業支援機能で各種ふせんを共有することで、生徒が自身の端末上で授業内容を確認でき、グループワークや授業後の復習に活かすことができる。

		授業の流れ	ClassPad.net での操作
step1		**概要の説明** リズムの違いや拍子の仕組みを学ぶこと、またそれらを使って簡単なリズムを聴いたり作ったりする活動を行うことを伝える。	
step2		**音価・拍子についての確認** 四分音符・八分音符・十六分音符について復習する。 四分音符を 1 拍とした場合、八分音符はその半分の音価、十六分音符はそのさらに半分の音価になることを説明する。 さらに、4/4 拍子・3/4 拍子・3/8 拍子等を例に、拍子の構成を解説する。	テキストふせんやファイルふせんで用意した音符をプロジェクターや電子黒板を用いて提示し、音符の音価についての説明を行う。
step3		**リズムクイズ** step2 で扱った音価を用いて、リズムクイズを出す。 クイズをふせんに表示し、1 問につき数十秒の時間を与え、隣や前後の生徒と相談しながらその場で答えを考えてもらう。答え合わせは step4 にて行う。	テキストふせんやファイルふせんで一小節のリズムを用意しておき、プロジェクターや電子黒板を用いて提示し、クイズを行う。

step4



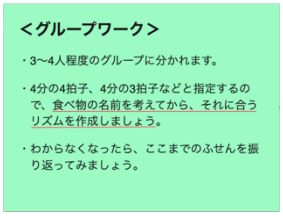


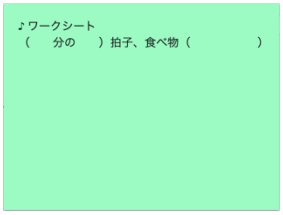
答え合わせ

step3 で行ったリズムクイズの答え合わせをする。答え合わせとともに、リズムに合わせた食べ物の名前を提示する。
一見難しく感じるリズムでも、聞きなじみのある食べ物の名前のリズムと合わせることで、音価と拍を理解させる。
また、4 分音符＋8 分音符／8 分音符＋16 分音符を同じ単語(ラーメン・ステーキ)を使いリズム打ちをすることで、4 分音符・8 分音符・16 分音符の拍感の違いを感じてもらう。

step 3 で用いたテキストふせんまたはファイルふせんに加えて、それらに食べ物の名前を記入したものを提示する。
ひととおりの説明を終えたら、ここまでに提示したふせんすべてを、リズムの例として授業支援機能を用いて生徒に配布する。

step5



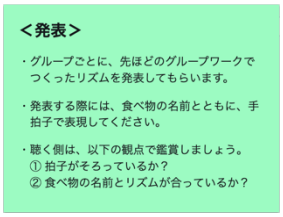


グループワーク

3～4 人程度のグループに分かれさせ、実際にリズムを作成してもらう。その際、4/4 拍子もしくは 3/4 拍子を指定し、食べ物の名前を考えてから、それらに合うリズムを作成させる。
1 グループで 3 個程度作成し、提出させる。

ここまでの授業で提示したふせんを参考に、グループでリズムを作成させる。
代表者がテキストふせん上に、グループで作成したリズムと、リズムに合わせた食べ物の名前を記入し、提出機能を利用して教員に提出する。
生徒がリズムをふせんに記入する際は、手描きツールを用いて音符や食べ物の名前をふせん上に記載させる。

step6

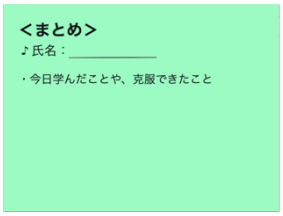


発表・鑑賞

提出してもらったものの中から、教員が 2～3 グループ程度選び、作成したリズムを食べ物の名前とともに手拍子で発表をする。
他のグループは、
・拍子がそろっているか
・食べ物のリズムと合っているか
など鑑賞のポイントを持って聴く。

発表するグループが作成したテキストふせんは、授業支援機能を用いてクラス全体に共有してもらう。

step7

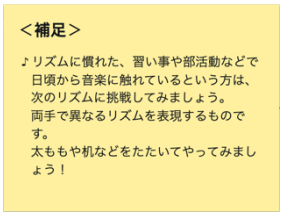


まとめ

ワークシートにて今日学んだこと、克服できたこと等をまとめて提出する。

テキストふせんを利用して作成した簡単はワークシートを用意し、授業支援機能を用いて配布する。
記入後、授業内で提出をさせる。

step8



参考・補足

リズムに慣れた生徒や、習い事・部活動等で音楽に慣れている生徒に向けて、発展的な内容として、両手を使ってのリズム課題を与える。

テキストふせんに手描き機能で描き込んだものを提示してもよいし、教科書等の楽譜から課題を与えてもよい。いずれにせよ、生徒のレベルに応じた課題になるよう配慮する。